

第七話

風呂は肥溜め^{こえだ}



ここの学校にいた先生のことなんだけどね。

かなり酒好きで、その頃は学校で酒飲んでもかまわなかったからね、ある日のこと、放課後に酒飲んで、いい機嫌で学校を出て家さ帰ってきたんだと。

そうしたら、途中できれいな女の人に会ったんだと。いろいろ話して、その女の人と歩いてきたが、分かれ道さ来たれば、その女の人と言うんだと。

「ここを行くと、わたしの家なんだけど、ちよつと寄っていきませんか。風呂も沸いてるし、酒もあるから」

まず、先生は酒好きだし、相手はきれいな女の人だしするから、

「んでは、ちよつとお邪魔するかね」

って、ついていったんだと。

そしたら、見たことのねえ屋敷があつて、中に入ると座敷には
いっぱいご馳走が並んでいたんだと。酒も並んでいたんだと。

すっかり喜んだ先生は、うんとご馳走になつて、酒も飲んで、
それから、

「風呂に入ってください」

って言われて、よろこんで入ったんだと。

「いい湯だ、いい湯だ」

気持ちよく風呂さつかつていたら、なんだかあたりで騒ぐ声す

るんだと。

はっと気がついてよく見たら、溜め桶の中さ入っていたんだと。

すっかり明るくなっていて、学校さ行く生徒たちが溜め桶を囲ん
で、先生の格好を見て大笑いしていたんだと。

これが学校中の評判になって、そりゃまあ、先生のごつてすか
ら、おっぴらには言うのははばかったけど、みんな知っていたん
だよ。